



日本パペットセラピー学会 (JPTA) からのお知らせ

* 主な記事：副理事長ご挨拶、新入会員としての抱負、各委員会活動紹介、第 20 回大会ご案内等
ニューズレター 2026 No. 1

2026 年 6 月 1 日 JPTA 事務局 〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘 4-10-1 尚綱学院大学 東研究室内
メールアドレス info@j-pta.net

日本パペットセラピー学会が創立してから 2026 年度で 20 周年を迎えます。パペットセラピーが益々実践の幅を広げ、人々の心に強く響いていく皆様の活動を期待させていただきます。(編集長：中下富子)

日本パペットセラピー学会副理事長としての抱負

副理事長 高村 豊 (タカムラ ユタカ)



今年度の大会は、「東京科学大学」で開催されます。理工系と医療が統合された世界トップレベルの研究・教育を目指す大学です。そこが学会の大会会場になることで、東京科学大学の学生さん方も「パペットセラピー」に興味関心を持っていただけたら嬉しいことだと思っています。

また、最近では脳科学者の方々と、発達障害 (神経発達症) への支援の在り方について意見を述べられる方が増えてきていることにも注目しています。コミュニケーションが苦手、こだわりが強いなど脳の機能に障害がみられる子どもたちとのかかわり方を追求している私は、民生委員として多くの高齢者とのかかわる立場にある者としてもパペットセラピーに取り組む仲間が増えることを強く期待しているところです。



各委員会の活動紹介と抱負

編集委員会

名誉理事長・原 美智子 (ハラ ミチコ)

日本パペットセラピー学会の編集委員会は現在、中下富子委員長 (群馬パース大学教授) のもと、狩野英美 (看護師・認知症看護認定看護師)、近喰ふじ子 (東京家政大学名誉教授)、原 美智子 (群馬大学名誉教授)、森平直子 (東京科学大学教授) の委員 (敬称略・五十音順) で編成しております。随時委員会を開催し、おもに、機関誌「パペットセラピー」(年 1 回発行) とニューズレター (年 2 回発行) の編集を担当しております。

本学会は 2007 年 7 月に発足し、2008 年 3 月に第 1 巻を発行して以来、機関誌は遂に次号で 20 巻目となります。感慨深く、また身の引き締まる思いであります。これまで、いろいろな領域でのパペットセラピーの研究論文を掲載してまいりました。また、年 1 回開催の大会での教育講演の講師からも、その年の機関誌に論文をご寄稿いただいております。また 2011 年東日本大震災での活動はパペットセラピーの理論をさらに深めました。

機関誌は価格 2,000 円 (第 12 巻以降の PDF 版は 1,000 円) で一般へも販売し、パペットセラピーの普及に努めております。誤字・脱字のある刊行物は価値が下がります。商品であることを肝に銘じ、著者自身と、編集委員の多くの眼で誤字・脱字の無いよう原稿の校正作業には心血を注いでおります。

学会創立 10 周年記念として機関誌第 10 巻増刊号 (2017) 『パペットセラピー入門 パペットセラピーの理論と実践』(愛称：ブルーテキスト) を刊行しましたが、第 20 巻記念の増刊号も発行を目指しております。今後も皆様のご研究を機関誌に掲載できますように応援いたします。

倫理委員会

近喰 ふじ子(コンジキ フジコ)

学会員から研究推進のために倫理的配慮申請が提出された時、当委員会は開催されます。

近年学会発表に際し、「COI 開示はありません」という文字の記載が徹底されていないのが現状です。当学会は医学系だけの学会ではありませんが、今後必要ではないかと考えており学会内でも周知して行く予定です。また、研究倫理綱領のような規定も作成していくことを検討しております。

***COI とは？ 「Conflict of Interest」の略で、利益相反**という意味です。簡単に言いますと、第三者からお金や地位を提供されることで、研究者が歪んだ判断をしかねない状態のことを言い、高い倫理性や透明性を持って研究を実施している事を伝え、同時に社会から広く理解や信頼を得るためのものなのです。

これらに該当しない場合には「・・・利益相反に関する開示事項はありません」と発表内ないしは論文内にも記載しなければいけない。もし該当する場合には、「・・・に定める利益相反に関する開示事項に則り開示します。(〇〇企業から〇〇円)」と論文の末尾に記入することとなっています。本学会にはこれらに相当するようなことはないと思いますが・・・。

少なくとも、学会発表の初めのところに「利益相反 (COI 開示) はありません」と必ずスライドに記載をお願いします。皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

パペットセラピスト認定委員会

理事長・東 義也(ヒガシ ヨシヤ)

近年の機関誌でご報告の通り、ここ数年、新規のパペットセラピスト認定が滞っております。

認定制度の周知不足や、認定条件の厳しさなど様々な背景が考えられますが、まずはその分析も含め見直しを進める必要があると感じています。私自身は、第 10 回大会の大会長をお引き受けした際、当時の原会長からのご推薦でパペットセラピストとなりました。

認定委員会では、一人でも多くの方にパペットセラピストになっていただき、全国でその活動を展開していただきたいと熱望しております。「パペットセラピー」の存在と有効性を広めるためにも、ぜひ次世代のセラピストの活躍を期待しています。現在、認定条件を見直し中です。理事会で承認され次第ホームページを更新しますので、ぜひ申請をご検討ください。



研修委員会

東海林 照子(トウカイリン テルコ)

研修委員会では、会員の皆さまの交流と学びに繋がる活動をしています。交流としましては、パペットセラピーカフェにて会員の方とパペット片手に楽しいおしゃべり time を過ごさせていただいています。

今年度は、7月10日(金)19時30分~20時30分に開催します。お申し込みは、学会ホームページからです。お待ちしております。学びとしましては、年に一回パペットセラピーのための腹話術講座をしています。受講の皆さん、笑顔で楽しく学んでいます。「パペットをどう使っているか悩んでいます。」「パペットをこんな時に使ってみたいんです。」など、みなさんと一緒に、パペットの介在方法を話せる場になっています。

今年度も研修委員一同、会員のみなさんと楽しく繋がりたい！という想いで活動していきたいと思っています。

広報委員会

岡 信行(オカ ノブユキ)

広報委員会では、昨年、パンフレットを更新いたしました。更新にあたり、パペットセラピーがどのような場面で有効であるかをお知らせするために、地域活動、特別支援教育、幼児教育、高齢者福祉、相談業務、医療の

6つの分野で活躍する方々にご寄稿をいただきました。

完成したパンフレットを読み返してみると、様々な場面で、パペットたちが活躍できることが伝わってきます。また、標準の封筒に入れて送付できるようにA4三つ折りにいたしました。データでも送れるように、再構成してみたいと考えています。





新入会員としての抱負（敬称略）

吉田 恵理子（ヨシダ エリコ）

はじめまして。群馬県在住の吉田です。私は看護師としてこれまで多くの被災地支援活動に関わってきました。ある日、避難所に腹話術師の方が来てくださいました。様々なパペットとのやりとりが、子どもも高齢者も良い笑顔になって感動しました。私もやりたいと自己流でパペットを使ってきました。世代を超えて人々の心を和ませる力に深い関心を抱き、より学びを深めるために入会しました。どうぞよろしくお願いいたします。

久保田 暖（クボタ ノン）

学生時代にパペットセラピーと出会ってから、学会への参加を通じてパペットセラピーの魅力をたくさん知ることができました。さらなる学びや技術の向上を目指して、このたび学会への入会を決めました。子ども相手だけでなく、大人へのパペットセラピーについても、もっと知りたいと考えています。

昨年まで学生だった身ですので、皆様方にたくさんご指導いただいて力いっぱい成長していきたいです。よろしくお願いいたします。

鈴木 法子（スズキ ノリコ）

大学で保育者養成の教員をしています鈴木法子と申します。かつては幼稚園教諭をしていました。定年退職まであと一年半となり、リタイア後の社会貢献の一つとしてパペットを通して子どもたちと繋がることができれば…と考え、入会させていただきました。私ごとで恐縮ですが、昨年末に家族を見送る経験をし、家族が旅立った直後は、ぬいぐるみとのコミュニケーションに支えられました。

パペットの素晴らしい力について学びたいと思っています。よろしくお願いいたします。

瀬野尾 栄子（セノオ エイコ）

宮城県に転居し、公民館で受けた東義也先生の講座を契機にパペットセラピー学会に入会いたしました。保育士養成校や保育園で働きながら地域で読み語りの活動をしてきました。その際にパペットを介して子ども達と関わる場面で、子ども達がパペットに寄り添い心を開く姿を見て、パペットの魅力と可能性を感じました。

これからパペットセラピーについて学び、自分も楽しみながら子ども達が喜ぶ活動を作っていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

中村 ますみ（ナカムラ マスミ）

障害のあるお子さんへの音楽療法の中でパペットを活用してきたと話題にしたことでお誘いを受け、本学会へ入会しました。子どもの気を惹きたいとの理由でパペットたちに協力してもらっていましたが、人に対する興味があまりないお子さんでも、パペットなら、そのパクパクする口に合わせて口を開けている姿に出会えました。このような実践知に基づいた研究ができそうな学会だと思っています。今年1月の「パペットセラピーのための腹話術講座」の楽しさで一層確信しました！どうぞ、よろしくお願いいたします。

吉川 美幸（ヨシカワ ミユキ）

はじめまして。小児専門病院に勤務経験のある看護師です。

以前、重症心身障害のあるこどもたちへのパペットセラピーを拝見し、こどもたちが目を輝かせて声を出す姿に感銘を受けました。こどもたちとパペットとの心の交流となったのでしょうか。ふわふわ柔らかいパペットは癒しの効果もあると思います。私もパペットとともに、こどもたちとの交流を楽しみたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



日本パペットセラピー学会 第20回大会ご案内

大会長 森平 直子（モリダイラ ナオコ）

第20回大会はテーマを「パペットが映し出す心の声～感情表現を助けるパペットセラピー～」として、東京科学大学大岡山キャンパスで開催します。

11月1日（日）、午前中の恩蔵絢子氏による教育講演から始まり、午後は大会長講演、口頭発表、ポスター発表、シンポジウム、パペットを使った感情表現の実習、総会などを予定しています。

大会とは別日になりますが、11月2日（月）には同じ会場でパペット作りのワークショップも行います。

既に会員の皆さまには研究発表の演題募集のご案内をメールでお送りしました。ポスター発表は、研究だけでなく、日頃の実践の様子を写真なども交えて紹介したり、ポスターの前に立ってパペットで実演したりしていただくのも良いと思います。募集期間は6月末までです。多数の皆さんの応募をお待ちしています。

なお、大会参加の事前登録は7月から開始する予定です。

副大会長は高村豊副理事長、岡信行理事、山根由香会員が担当します。



パペットセラピー活動推進のための「地域活動助成金」制度のご紹介

日本パペットセラピー学会では、会員のパペットセラピーに関する活動を促進するために、「地域活動助成制度」を実施しています。ホームページの「地域活動助成金支給規定」をご参照のうえ、助成金支給申請書に必要事項を記入して、学会事務局へお申し込みください。

なお、活動実施後には、報告書の提出、機関誌「パペットセラピー」への報告の掲載が必要になりますので、よろしくお願いいたします。

事務局だより



昨年度は18名の新規入会があり、会員数はまもなく100名となります。医療・看護、心理・教育、高齢者・障害者福祉、発達・子育て支援、保育・幼児教育、芸術・芸能関係など・・・多彩な専門分野の皆さまが集まっていることを心強く感じています。今年度11月1日（日）の学会第20回大会も、交流と学び合いの貴重な機会です。ぜひ万障お繰り合わせのうえご参加ください。

また、論文という形でなくとも、日々の実践や小さな体験談、活動紹介、学会運営へのご意見なども、ぜひお気軽にお寄せいただければ幸いです。皆さまとともにつくる学会として、今後も歩んでまいりたいと思います。

事務局長・安藤 倫子（アンドウ トモコ）